

發行編輯人 川崎文治 福島縣石城郡平町字長橋町廿五番地 發行所 常磐毎日新聞社

# 常磐新聞

定価 一月五錢 三月十五錢 半年三十錢 一年六十錢 廣告 五字一錢 十字二錢 二十字三錢 五十字五錢 一百字十錢 二百字二十錢 三百字三十錢 四百字四十錢 五百字五十錢 六百字六十錢 七百字七十錢 八百字八十錢 九百字九十錢 一千字一圓

八 月 十 一 日 夕 刊

## 中元大賣出し

御贈答には 美しく便利で喜ばれる

亀の商品券を御使ひ召せ

平町三丁目 (電話六十七番)

### 中野吳服店

## 是非

粹上品な履物を 御求めの際は

平町二丁目 電話四〇五番

### 和久井屋

佐藤榮一

平町田町六十八番地

謹告 當年は三男三郎の新盆に相當し候へ共時節柄提灯其他の贈與品御辭退申上度此段謹告仕候

是非和久井屋へ 廉屏風は原價にて 提供致します

是非お越下さい

平町二丁目

平町三丁目

平町二丁目

平町三丁目

平町四丁目

平町五丁目

平町六丁目

平町七丁目

平町八丁目

平町九丁目

平町十丁目

平町十一丁目

平町十二丁目

平町十三丁目

平町十四丁目

平町十五丁目

平町十六丁目

平町十七丁目

平町十八丁目

平町十九丁目

平町二十丁目

平町二十一丁目

平町二十二丁目

平町二十三丁目

平町二十四丁目

平町二十五丁目

平町二十六丁目

平町二十七丁目

平町二十八丁目

平町二十九丁目

平町三十丁目

平町三十一丁目

平町三十二丁目

平町三十三丁目

平町三十四丁目

平町三十五丁目

平町三十六丁目

平町三十七丁目

平町三十八丁目

平町三十九丁目

平町四十丁目

平町四十一丁目

平町四十二丁目

平町四十三丁目

平町四十四丁目

平町四十五丁目

平町四十六丁目

平町四十七丁目

平町四十八丁目

平町四十九丁目

平町五十丁目

平町五十一丁目

平町五十二丁目

平町五十三丁目

平町五十四丁目

平町五十五丁目

平町五十六丁目

平町五十七丁目

平町五十八丁目

平町五十九丁目

平町六十丁目

平町六十一丁目

平町六十二丁目

平町六十三丁目

平町六十四丁目

平町六十五丁目

平町六十六丁目

平町六十七丁目

平町六十八丁目

平町六十九丁目

平町七十丁目

平町七十一丁目

平町七十二丁目

平町七十三丁目

平町七十四丁目

平町七十五丁目

平町七十六丁目

平町七十七丁目

平町七十八丁目

平町七十九丁目

平町八十丁目

平町八十一丁目

平町八十二丁目

平町八十三丁目

平町八十四丁目

平町八十五丁目

平町八十六丁目

平町八十七丁目

平町八十八丁目

平町八十九丁目

平町九十丁目

平町九十一丁目

平町九十二丁目

平町九十三丁目

平町九十四丁目

平町九十五丁目

平町九十六丁目

平町九十七丁目

平町九十八丁目

平町九十九丁目

平町百丁目

### 痛快な一語

中山雅司

地方長官會議に於ける若槻内相の訓示は從來の内相にあまり其類を見ざる程の歯切れのよい、キビ／＼した快男子的言辭であつた事は、頗る快哉を叫ぶに足るべきものであつた、就中立憲治下にあつて政黨の存在する以上、其黨勢の擴張を圖らんとするは避け難き事實である、併し政黨が官憲に由りて其大を成す如きは之れ官憲を紊すものであり、餘毒を大ならしむる所以である、政黨の擴大は政黨自身

身の力に由つて之を爲すべし、現内閣の閣員は多く政黨員なりとは言へ、其與黨の爲めに敢て諸君の助力を頼まず諸君は公平公正、正義を履み公道に由るべしと説き若し一黨一派に偏する如きならば、斷じて容認せずと高飛車に出でたのは近來の痛快至極である

内相の説く迄も無く、政黨の勢力擴張は其政黨自身の手を以て爲すべきであつて、決して地方官憲の手を借りて其大を圖るべきでは無い、乍併過去の事實は地方官憲の往々にして政黨の走狗たるに甘んずるのみか其走狗たるを以て光榮と心得居る馬鹿者もあつた其處に必然の結果として醜關係も結ばれ綱紀の頹廢も生れるのである

現内閣が政黨によつて組織され、過去の情實に就ては微細に之を調査し得て、特に痛烈に地方長官を誡諭したものであらう、それは護憲三派先ず已れを淨ふせねばならぬ、内相に秋霜の清く凜たるを自於する若槻氏を選んだのも、此に於て大に意義ありと謂ふべく一黨一派に偏する如きならば斷じて容認せずの一喝は正に地方長官を通して一般地方官憲に對する頓悟の痛棒である事を欣ぶ者である

## 東京 コーカス値下

壹俵二付 一金二圓三十錢  
壹噸二付 一金三十三圓也

平町月見町

### 佐藤鐵工部

電話三六二番

## 丸登株式会社

平町田町 電話三三二番  
川添房二郎

## 久野製菓販賣部

福島縣平町一丁目  
電話百五十番  
工場 平町長橋町六十一番地

新らたに菓子工場を經營して皆様方の御家庭にお安く提供する事となりました何卒お買ひの程を

御料理は 金子亭

平町公園 (電話二三〇番)  
御旅館 金子亭

自動車の御料理は 金子亭

平、四倉間 一人前 金五拾錢  
平、四倉間 貨切り 金五圓  
四倉間 一人前 金貳拾錢  
海氣館 間

### 株買中値

左記の値段は本日の標準値に付御用の節は御問合願候

錦格	拂込	時價
磐城銀行	五〇〇	五三〇
平銀行	五〇〇	七二〇
磐城銀行	一一五	一〇五
磐城銀行	五〇〇	四三〇
磐城銀行	三〇〇	二九〇
田村銀行	一一五	一一五
四倉銀行	一七五	一七五
農工銀行	二〇〇	二四五
同新	一五〇	一八八
同新	五〇〇	五五〇
同新	一一五	一六〇
同新	一一五	九八
同新	五〇〇	三三〇
同新	一一五	一七〇
同新	一一五	六五
同新	一一五	一三五
同新	一一五	一三〇
同新	一一五	二六〇
同新	一一五	二三〇
同新	一一五	三三〇
同新	一一五	一七〇
同新	一一五	六〇
同新	一一五	四一〇
同新	一一五	一八〇
同新	一一五	六四五
同新	一一五	三四五
同新	一一五	八〇

## 大出賣

中元の御贈答品を正札の一割引で 大賣出し開始しました是非御用向の程を願ひます

鹽屋の商品券(贈るに便利) 受けて重寶

平町土橋

### 鹽屋吳服店

電話二二一番

石城銀行組合は從來午後に於ける營業時間を四時迄と致居候處銀行條令の定むる處に依り各地同様八月十一日より午後三時迄と改め營業可仕候間此儀御了承被下度此段謹告仕候也

### 石城郡銀行組合

# 入山第五坑の瓦斯爆發して 七十五名坑底に惨死

現場探検の爲め決死隊を組織  
惨たる屍体が搬出さるる坑口

## 磐城炭界に前例なき椿事

一昨年八月にはロープ切斷して四十餘名の惨死者を出し本年二月には坑内に大火災起り十三名の犠牲者を出した石城郡湯本町入山炭礦にては九日午後六時頃第五坑南卸口に於て俄然大音響と共に瓦斯爆發し入坑作業中の坑夫七十五名惨死した椿事突如とした急報に接し同炭礦にては直ちに五十餘名の決死隊を組織し現狀に繰り出したが第一番に秋田鐵道山學校卒業陸軍歩兵少尉北海道生れ齋藤利三郎(七)助手の係長補工手學校卒業茨城縣生れ丹秀雄(七)兩名の死體を見更らに奥深く侵入應急の所置を盡し十日夜迄に全部の屍體を引揚げ夫々遺族に引渡したが此椿事に際し機械工村中一男(三)のみ一人は辛うじて一命を取止め坑外にはひ上つた

## 此椿事の原因は

### 爆藥點火からか？

#### 取調べの術なき惨狀

右椿事の突發と共に郡山本縣保安課長來郡し伊藤平署長羽岡警察署其他と現場に急行佐藤檢事も和田書記と共に臨檢原因に就て極力取調中であるが多分第五坑南部突當りの個所を爆破掘進せんとして爆藥に點火した犠牲者は

## 會社葬

労働者は會社の誠意に感激

入山炭礦にては七十五名の犠牲者に對し社葬を以つて懇に葬し遺族の救護に就て

る場合には全山不穩の氣に満されるのが普通であるが今回は幸ひ是等の事がなく至つて平穩なるを得たのは

## 決死隊の手に依り

### 掘り起された死体

#### 僧侶の懇ろな讀經

勇を鼓して坑内に突入した決死隊の手に依つて掘り出された惨死体は或は黒焦となり、或は赤く爛れて二眼見られぬ慘鼻の極を呈して居るが昨夜迄に左記七十五名の屍体は何れも收容濟となり事務所の一寓に安置されて焼香ゆるやかに登り讀經する僧侶の聲もしめり勝ちである

## 地獄の様

屍体を抱き 家族の慟哭

永山彌、大友軍司、羽田勇、伊藤留五郎、大井川庄藏、千代清久、大友善吉、西岡末太郎、齋藤利三郎、眞船清吉、高木文作、杉本幸一郎、千葉周助、佐久間金左衛門、高瀬七郎、桑竹五郎、櫻井ウメ、小山ケサノ、木島新八、齋藤要、本田朝秋、梅津ヨシノ、石田キン、丹秀雄、舟生シノブ、多田キエ、伊藤平光、高橋麻訣、佐藤巳代吉、伊藤留吉、井上清次郎、成田幸義、松田コツエ、前田清、高橋與七、松本優、久保田謙義、小野留之助、安藤榮、辰巳晴登、山家養次、水戸政治、佐藤由右衛門、關口ウメ、會田米藏、青木爲八、佐久間忠大、大友孫助、佐藤ツル、菅野柳次、大竹眞實、堀越トヨ、直井アサノ、市川道重、石川トラエ、佐藤菊盛、川崎末吉、佐藤直吉、鈴木

## 悲惨の一家

遺兒は眼を 泣き腫して

殉職した齋藤技師は妻とし子(三)との間に長女京子(三)長男將(一)の一男一女ありまた丹係長補は妻トメヨ(三)との二人暮しであるが惨死者の遺族で最も悲惨なのは

## 石城の夏蠶

相場は上向き

夏秋蠶は天候順調なため經過頗る良好で数日前から出廻り石城郡内の山の手方部では賣買を開始したが相場は一貫目八圓前後でますます好況の見込みなので農民もやゝ活氣づいて來た

## 十三の少女

母親となる

石城郡高久村大字下高久雜貨商三河屋事山崎傳次養女山本てつ(三)假名は同村小學校尋常五年生であるが同村鈴木巳之吉雇人山形縣生れ鈴木龜治(三)と豫て私通し妊娠して居たが八日の夜男子を分娩母子共に健全であるが近來珍らしいので同地方の大評判である

### 取消文

本紙八月七日常盤片々欄に於ける吉田禮次郎氏に對する記事は同氏の名譽を傷けたるものと認められ甚だ遺憾に堪はず依て同氏の名譽の爲めに全文を取消す (川崎社長)

## 不思議にも助かつた 只一人の生存者

瓦斯爆發に吹飛され  
夢中に逃げたと語る

只一人の生存者機械係坑夫村中一男は椿事の現狀から千二百間の坑底で作業中であつたのだが腕其他に數箇所打撲傷や擦過傷を負へ同社宅の

## 病床に

動かぬ身を横へてオト／＼した落付かぬ眼を動かしながら見舞ひに訪ねた記者に對して語る「丁度午後六時頃と覺えて居りますが不思議なウナリ

## 不思議

な位へで今でも夢を見て居るのではな

## 土木委員踏査

平町土木委員会は本日午後十時から開會、警中衛校舎の修繕及び南理新道開鑿の工事經過を視察する爲め實地踏査した

## 水不足から

### 列車 休止

#### 平郡線が困難

石炭と水の力で日々幾萬と敷知れの旅客や貨物の輸送に餘念のない鐵道の機關庫

會社が罹災者に對して全力を挙げ至れり盡せりの手を當を爲した爲めて却つて一般労働者は會社側の誠意に感激して居る

## 職業紹介調査

過般平町々會に於て町營職業紹介所設置の件を可決したることは既報の如くであるが愈々九月上旬より設置に着手することとなり内務省より赤津滋雄氏不日調査のため來平すると

## 平町人事

工藤清三(四等)長岡小太郎諸氏以下二十等まで

## 臨海生徒歸平

平第一小學校中備臨海學校生徒四十餘名は八日午後五時半歸着にて頗る元氣に歸平したが驛頭には出迎えの父兄が見違ふ程黒くなつた我子の顔をながめてニコニコして居た

## 婚姻

△石城郡湯本町大字湯本 小野義重氏(七)白鷺町石島ヨシエ(三)

## 死

△三丁目 鈴木ミヅ(三)  
△久保町 遠藤登美(三)  
△仲町 金澤金太郎(三)  
△長岡町 郡司俊雄(三)  
△古殿町 根本美子(三)  
△材木町 關内剛次郎(三)